

リスクマネジメント

植松 浩司 先生（座長：藤田 邦彦 先生）

近年、マスコミの報道などを見れば医療訴訟の増加は顕著で国民の関心も高まっています。歯科医療、特に歯科矯正の分野についても例外でなく、皆さんの日常の臨床において患者さん側よりの直接、間接のクレーム、誹謗・中傷、訴訟提起など身近に経験、聞き及ぶことも少なくはないと思います。

私は大学を卒業後約 **17** 年間、大学病院、総合病院他で歯科臨床に携わった後、司法試験合格・弁護士登録後、数多くの医事紛争事件に直接、間接に携わってきました。その中で感じるのは、医事紛争「予防」の重要性です。これまでの、弁護士などを中心とした、法曹・司法界は、紛争が顕在化した後に事後的な処理をすることが中心でした。しかし、自的な処理には限界があり、当事者の経済的・精神的・時間的な負担は大きいものがあります。既に、企業、各種団体においては、リスクマネジメントの一分野として「予防法務」という概念で、法律家の関与が進んでいますが、医療分野、特に診療所レベルでは、その特殊性、専門性、煩雑性などのためか非常に遅れているのが現状です。

私は、歯科臨床に携わる皆様のお力になればと考え、これまでの臨床経験、現場の感覚などを生かして、かつ、可能な限り、疫学・公衆衛生的な概念も活用し、リスクマネジメントを効果的、合理的に行うために医事紛争予防を体系化・具体化して、活動をしています。

本日は非常に限られた時間ではありますが、弁護士であり歯科医師である私独自の視点で、医事紛争のリスクを少しでも低下させるための、考え方・方法論などの概要をご説明できればと思います。

植松 浩司 先生

JBO 顧問弁護士、あすか総合法律事務所

藤田 邦彦 先生

日本歯科矯正専門医教育機構（**JAO**）理事長